

医心 伝心

富山県医師会役員に就任して 知ったこと、思っていること

富山県医師会監事 佐伯 俊雄

昨年から富山県医師会（以下、県医）の監事として毎回理事会に出席しています。初めての経験や知り得た情報がたいへん多く、この機会にこの紙面をお借りして県医理事会の様子や「医報とやま」について紹介したいと思います。

県医の役員は会長1名、副会長3名、常任理事5名、理事9名、監事3名で構成され、各郡市医師会から1名以上が派遣されています。理事会は月2回、原則として第2、4木曜日の午後7時30分から富山県医師会館3階の理事会室で代議員議長、副議長を含めた総勢23名で開催されています。《ペーパーレス会議》郡市医師会の理事会では大量の紙の資料が準備されていることと思います。県医の理事会ではより大量の紙の資料が準備され、さぞかし大変だろうと思って初めての理事会に出席しました。しかし、驚いたことに出席者の机の上にはiPadと報告・協議事項の表題が書かれた数枚のレジユメがあるのみでした。各事項の詳細な資料はすべてiPadの中にあるのです。

定刻になると、レジユメに従って会長自身の司会で理事会が進められていきます。発言者はiPadの中にある資料の場所を提示し、全員がその資料を見ながら説明を受けていきます。いわゆるペーパーレスの会議です。

《スムーズな議事進行と役員尽力》理事会では短時間に大変多くの報告・協議事項がありますが、いつもスムーズに進行していきます。先に挙げたペーパーレス化がその一助になっているのですが、それ以上に、役員の前準備に負うものが大きい

と思われま。理事会以外に月一回程度の常任理事会が開かれており、多くの時間と労力を費やして問題点が吟味されています。

さらに役員は、時には自院の診療時間を削り、必要であれば東京や名古屋など遠方への出張、各種委員会の催行、県内外の各種団体との親睦会や会議への出席などをこなしています。この半年の間に、会長以下全員が一丸となって真摯に一生懸命医師会活動に取り組んでいる様子を目の当たりにしてきました。

《「医報とやま」について》月2回発行されている「医報とやま」の中で役員が直接関係している箇所を紹介したいと思います。表紙を開いた3ページ目に「医心伝心」、裏ページに「にな川だより」、中ほどに「理事会議事録」が掲載されています。「医心伝心」は巻頭言として会長以外の役員が執筆しています。県医師会の活動内容や理事の担当事項の要点や出向した会議の内容で、やや堅苦しいといえるかもしれません。一方「にな川だより」は会長、副会長以外の役員が執筆しています。日頃の所感や随想などが掲載されており、親しみやすい内容となっています。「理事会議事録」は事務局で作成され、会長、副会長、監事がチェックし、理事会で署名捺印しています。これら原稿の完成までには幾度となく事務局とのメールのやり取りがあります。忙しい中、役員、事務職員が一丸となって医師会活動を支えていると思います。

今後とも皆さんからのご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。